

## 第1節 事例研究

事例	対象	主訴	働きかけ	転帰
〈事例1〉 反社会的傾向が強い高校生への心理教育的支援	高校2年 男子	生徒指導処分拒否・中途退学したい	徹底した受容・傾聴。家庭訪問による保護者とのリレーション作り。学習支援に遅れをきたさないように、心理教育的支援教室において生徒指導処分に伴う指導・支援。相談員との連携。	受容による怒りのエネルギー分散により、敵対意識を抱いていた担任教師に対する態度が軟化。カウンセラーを安心の対象と認知することにより、指導処分を受け入れる耐性が確立。
〈事例2〉 自己表現が困難な高校生に対する心理教育的支援	高校3年 女子	自己表現ができない	心理テストによる自己分析。メンタルフレンドによる支援。	メンタルフレンドの支援により、母親に対して自己の気持ちをはじめて表現できた。心理教育的支援教室でもマイベースの通学形態が逆にリズムの確立を促進した。
〈事例3〉 集団生活不適応感を抱く高校生への心理教育的支援	高校3年 男子 (原級留意)	小集団授業に入れない	心理教育的支援教室自習室への登校を継続。家庭訪問の継続により、ホームスクリーニング的授業の実施。スマーブルステップにより、小集団への適応を促す。単位認定・出席規定などの柔軟な解釈・対応	家庭訪問継続による課題達成で、達成感を得る。医療との連携も功を奏し自習室への登校意欲を維持。卒業旅行へも参加できるまでに至り、卒業可能と判断された。
〈事例4〉 「個」を尊重し、「適応力」を身に付けさせる心理教育的支援	高校3年 男子	引きこもりに対する不安	単位認定の弾力化。教師の仕事の補助(パソコン操作)、学級新聞作りなど、達成感を高める支援。	役割を与えられ、信頼されたことによる自信から、引きこもりを避けることができた。仕事に対する見通しも立ち、心理教育的支援教室のパート事務職として関わることになった。